

雲の撮り方



露出は単体入射光式（スタデラ）で測定値を出してみた。

ISO32、 $f : 11$ 、 $1/30$ でプラスマイナス1絞りの中の一枚である。

露出計は単体入射光式（スタデラ）で、ISO32に設定し空に向かって計測。

一つの被写体（雲）でシャッター速度を変えて（+、0、-）3枚撮影。

標準現像液では中間諧調もそれなりに出て現像出来ることを確認した。

カメラ内蔵TTL（分割測光）反射式で撮る場合

ISO-6で測光出来ない場合、ISO-100で測光値を出しそれをスタデラでISO-6のデータに換算して撮影。

（このフィルムにはDXコードシステムが付いていないので手動で感度を合わせなければならぬ。）

単体露出計（入射光式・スタデラ等）で測光する場合

露出計のISOを32に設定し空に向けて計測しその露出値で撮影。

フィルム現像

タンク：LPLステンレスタンク

現像液：コダックD-76原液20で7分

 フジマイクロファイン原液20で12分

定着：フジフィックス20で10分

水洗い：流水で20分

前浴：水（処理水が薄紫色になるが問題はない）

今回のテストでは風景写真でも入射光式の単体露出計の測光値で撮ったネガに良い結果が得られた。だがこれは雲の生態写真の場合であって風景写真ではかなりコントラストが付いてしまうようだ。

良い結果を得るにはまだまだ試行錯誤が必要である。

(快晴に絹雲の場合 f : 8 1/8 で良い結果が得られた)

フジコピーフィルム・コピナール現像

1リットル用の中には2種類の薬品が入っていた。

説明書通りに2種類の薬品を溶解し、フジフィルムミニコピーHR を現像してみた。

かなり粒状が細やかで超々微粒子ではないかと思う。フィルムの粒状性は今までにない素晴らしいものであった。

これなら全倍に伸ばしても粒子の荒れは気にかからないのではないだろうか。

雲の生態を撮るには最良の組み合わせなのかもしれない。

[データ]

SIGMA 28mm F:1.8 UV フィルター

フジフィルムミニコピーHR

ISO32、f : 8、1/250 (スタデラにて測光)

現像液、フジコピナール・22 原液・4 . 5分処理。

[作例 1]



TTL (反射光式) ISO = 6 にて撮影。

f : 8 1/15

(ISO = 100 で測光しスタデラ でISO = 6 に変換)

スキャナーはネガフィルムより自動露出

[作例 2]



TTL (反射光式) ISO = 32 にて撮影。

f : 8 1/30

(ISO = 100 で測光しスタデラ でISO = 32 に変換)

スキャナーはネガフィルムより自動露出

[作例 3]



[作例 1]をPhotoshopにてレタッチ。

ミニコピーHR で風景を撮っても露出の調整によっては十分堪えられる。しかしコントラストはきつくなる。

ネガを見るとコピーフィルムだけあってアンダー部分は完全に抜け切っている。(黒は純黒、白は純白)

撮影データ

フィルム：FUJI MINICOPY HR
カメラ：ミノルタ 303si
レンズ：タクマー55mm f:1.8
フィルター：なし

フィルム現像データ

タンク：LPLステンレスタンク
現像液：フジマイクロファイン原液20 で12分
定着：フジフィックス20 で10分
水洗い：流水で20分くらい

現像液の賞味期限切れの場合。

定着液も賞味期限切れ。

現像液、定着液の温度を測ると10で標準現像温度の20には程遠くかなり低い。

面倒くさいので昨夜の風呂の残り湯の中に二つをタンクごと放り込む。

その間にダークバックにフィルムとLPLの現像タンクそしてペンチ？を入れ、慣れた手つきでフィルムを巻き込む。(ペンチはフィルムをケースから取り出すときにケースを壊すため。普段はケースからフィルムの先端を5cmほど出している。)

以前はリールに巻き込むのに手こずったが、最近ではすいすいと慣れたものである。

そして、適温になるまでコーヒーを飲みながら15分ほど待った。

まず現像処理は、液温が一定に保つため洗面器に20のお湯を入れておき、その中にタンクを入れて一分おきにタンクを手で振って10秒ほど攪拌。(タンクを手で持って手首を左右に回す。)

但し、普通は原液20で8分位の処理なのだが、賞味期限がかなり過ぎていたので9分半で処理してみた。

と、その前(現像する前)に20のお湯をタンクに入れて前浴作業。

前浴は、今までの経験からしてもしなくても攪拌さえしっかりやればムラは起きないみたいだ。(ドライウエルをかなり薄めて前浴するのもムラ解消には良いみたいだ。)

中版のフィルムの場合は面積が広いのでムラを出さないためには前浴は必須かもしれない。そしてすぐさま停止処理、停止液は酢酸の希釈液で30秒ほど攪拌。(水だけでやっても良い)

定着処理は新品で約6分~10分ほどだが、保管期間が過ぎていたので12分程処理しタンクから取り出して抜け具合を確認。(ミニコピーの場合、感光しない所は完全な透明)

最終工程の水洗いはいつも水洗い促進剤を使うのだがフジQW液を切らしてしまったので水道流しっぱなしで10分ほど。(QWを使用した場合、原液に30秒ほど漬けその後水洗いは5分程度)

仕上げはドライウエルの希釈液に30秒ほど入れ、取り出してから洗濯バサミに挟んで風呂場で乾燥。(風呂場は埃が立たないので非常に良い)

やはり、現像液と定着液が甘かった(舐めて甘いのではなく、賞味期限が切れているため?)のためか何となく切れ味(シャープさ)が悪く眠たそうな気がする。

コピーフィルムは超々微粒子なのでフラットな仕上げになりデジカメで撮った写真と勘違いされる。

しかし、諧調は素晴らしく良く出ていると思う。(雲を撮る場合、露出は雲(空)に合わせるので風景は露出不足となってしまう)